

「地域とつながり、生きぬく力を育む防災教育」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 東洋町立甲浦小学校

I 学校における背景、問題意識

甲浦小学校校舎は、海拔 8.5m に位置しており、最大級の南海トラフ地震では、最大震度 6 強、30 cm の津波到達時間は校舎 37 分・運動場 12 分、最大浸水深は校舎 5 m・運動場 10m と想定されている。

すぐ近くには白浜海水浴場があり、小島が点在するリアス海岸で、「室戸・阿南国立公園」の一部である。

また、本校は地域で比較的高台にあることから、緊急避難所に指定されており、地震発生時には、本校敷地から山への避難場所に通じる避難道を目指して、地域住民の多くが避難することが予想される。そのため、日頃から地域社会と交わり、児童の自助共助の精神を育てていきたい。

II 取組のポイント

- ◆各教科・領域等と防災教育をからめた年間指導計画の作成
- ◆防災教育の授業力の向上
- ◆実践的避難訓練の実施
- ◆児童・保護者へのアンケート実施
- ◆学校安全計画や防災マニュアルの見直し

III 取組の概要

1 甲浦小学校の防災教育の目標

- ・災害の危険を理解できる子どもの育成
- ・災害時に自らの判断で適切な行動がとれる子どもの育成
- ・災害時に他と協力して安全に心配りできる子どもの育成

2 実践的避難訓練の実施

【第 1 回】4 月 15 日（火）3 校時

- 授業中を想定した訓練
- ・新入生が学校の避難場所を確認
- 起震車体験

【第 2 回】5 月 14 日（水）13 : 15 ~

- 小中合同避難訓練
(小学校昼休み・中学校 5 校時)

【第 3 回】9 月 2 日（火）7 : 15 ~

- 登校中（登校班）を想定した避難訓練
- ・地域、保護者、自主防災、町総務課の協力を仰ぎ、避難行動について助言いただく
- ・訓練実施後、集団登校後反省会

【第 4 回】10 月 3 日（金）13 : 50 ~

- 防災参観日
- ・防災授業（全学級）
- ・帰りの会の時間を想定した、親子一緒に避難訓練
- ・保護者への引き渡し訓練

【第 5 回】11 月 5 日（水）10 : 00 ~

- 東洋町緊急地震速報の伝達訓練に合わせた避難訓練



《すぐに身を守る行動をとる》

●避難訓練の反省から

- ・避難道を先に上り始めた人が歩道いっぱいになり、後から来た人が前に進めなくなってしまった。
- ・歩道中央を開けることにより、速く上る人を優先して避難できるように指導する必要がある。
- ・5 月 14 日に実施した小中避難訓練でのルール（避難道の中央を開けて避難する）を再確認するため、翌日 6 日に避難道の通り方等を改めて指導する。

【第5回の反省点を活かした訓練】

11月6日（木）朝の会の後

・階段の中央を空けて避難



《避難道の通り方を確認するための訓練》

【第6回】12月2日（火）13：15～

○火災を想定した避難訓練

・地震発生時にも火災が起こることを学習

【第7回】2月27日（金）予定

○お別れ遠足時に避難訓練

3 防災の授業

各教科・領域等で、防災教育の関連を図り、防災教育の指導法について研究してきた。以下は、防災の視点を踏まえた授業実践である。

【1年生「生活科」の授業実践】

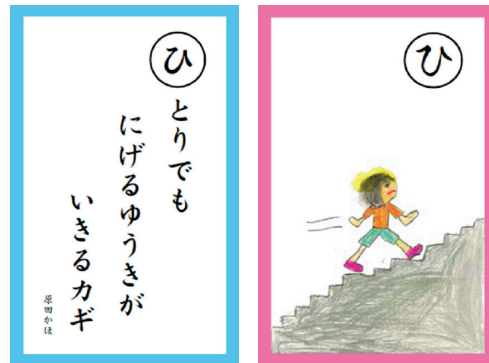
単元名：みんなげんきいちねんせい

目標：学校や地域の防災に関する場所や施設、人との関わりを振り返り、命を守る大切さを考えながら、かるたを作ることができる。

防災の視点：学校や地域の防災設備・危険となる場所・防災に携わる人々への関心を持ち、災害時に適切な行動を取ろうとする態度や心構えを「ぼうさいかるた」に表現することを通して、児童にとって身近な人たちの防災意識を高める。



《○○○○○と指を折りながら読み札を考えたよ》



《防災かるた》



「防災かるた」は、保育所や福祉施設に寄贈した。また、新入生体験入学の時に、1年生が「読み札」を読み、保育園児が「絵札」をとる遊びを実施した。

【2・3年生「学級活動」の授業実践】

題材：下校中に1人である時に地震が起こったら…

(2) カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

ねらい：下校中に1人である時に地震が発生した場合の行動を考え、実践する力を身に付けさせることをめざす。



下校途中に、地震が来たらどうする？

3年生がリーダーになって、通学路の危険物や危険箇所などを確認した。扉に残った昭和の南海地震の跡も見つけた。

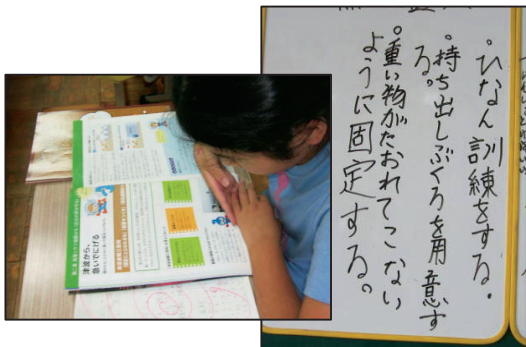
下校方向が同じ児童同士がグループになり、お家の方と一緒に調べたことを拡大図にまとめていった。

【4・5年生「学級活動」の授業実践】

題材：津波から逃げる

(2) カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

ねらい：津波避難の三原則の意味を理解し、1人でもいるときでも津波から適切に避難できるようにする。



《津波避難三原則の学習》

甲浦の津波予想地図や津波シミュレーション等の映像資料を使い特徴をつかませた。

自己判断し、すばやく避難行動をとることができる力を身に付けさせた。

【6年生「学級活動」の授業実践】

題材：避難所生活を考えよう

(2) カ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成」

ねらい：災害後の避難所生活に注目し、自分たちにできることは何かを考えさせ、それについて発表し、みんなで意見を共有して深めることとする。



《映像から伝わる雰囲気を感じ取る》

避難所と避難場所のちがいは何か、被災後の生活はどんな生活なのか、今から自分達にできることは何かについて意見を共有することができた。

4 保健委員会活動と防災教育

【止血法】10月17日(木)

朝礼で、災害時などに活用できるスキルとして、児童1人でも簡単にできる止血方法について、保健委員会から実際によくある事例を中心に話をした。

これ以後、指から出血した児童が、負傷部位を心臓より高く上げて保健室に來たり、「血を止めるには、どうすればよかったかなあ？」と問いかけると、応急処置ができたりする児童の姿が見られるようになった。朝礼で学習した内容を実生活に活かせるようになってきている。

今後も児童1人でも簡単にできる手当の方法などについて、継続した取組をしていく必要があると感じた。



【防災ずきんちゃん】11月21日(金)

実際の防災ずきんを用い、「どこにいても、大きな揺れを感じたら、とにかく早く高台へ避難する」という内容のものを、ミニ劇で全校児童に伝えた。ミニ劇の中で実施したクイズの返答からも、児童の防災に関する知識も、少しずつではあるが身に付いていると感じた。



《保健委員の演技に、みんなくぎづけ！》

5 運動会と防災教育

防災意識を高めるために、今年度は運動会競技に防災と関連付けた種目を取り入れた。児童とともに保護者や地域の方々の防災意識の向上を目指した。

競技例を紹介する。

【1年生親子競技】

つながみがきたぞー！

長い竹の両端を2人で持ち、障害物をまわってスタート地点まで帰り、そこで列になって、待っている競技者の足下を竹ですくい、最後尾まで行った後、今度は頭上を通し最前列の2人に竹を渡してリレーする競技。

【2・3年生親子】

津波だ あわてず 急げ

一輪車にボールを3個入れて、親子で片方ずつ持って運び、リレーする競技。

【PTA種目】

火事だーっ！火を消せバケツリレー

低学年の保護者・高学年の保護者・来賓教職員の3チームに分かれて競技。水を入れたペットボトルをバケツに入れて、所定の位置までバケツリレーで運ぶ。バケツは、お互いの手の届く範囲で手渡すことがルール。

【全校児童競技】

急げ！自主防災

リュックサックの中に、水の入ったペットボトルを入れる。(低学年2本・高学年3本) そのリュックサックを背負っての障害物リレー。ハードル・網・平均台を谷・川・瓦礫に見立てた。全校縦割り班での競技。



《2・3年生親子競技「津波だ あわてず 急げ」》

IV 地域や防災関係機関等との連携

【甲浦小学校防災教育実践委員会】

防災事業推進にあたり、甲浦小学校実践委員会を立ち上げた。行政や自主防災組織・地域・保護者に実践委員になっていただき、学校行事や研究授業などへの参加や協力をいただいた。

《研究授業への参加例》



下校中もし地震が起きたら……。ここを境に、逃げる場所を決めようか？どっちが近い？



防災教育実

践委員の皆さんが研究授業に毎回参加してくださり、地域防災の実情や避難の仕方などについてアドバイスをいただいた。



《早朝から避難訓練へ協力》



《登校時の避難訓練》
地域の自主防災の方から、避難倉庫の説明を受ける。

【甲浦中学校との連携】

《小中合同避難訓練》5月14日(水)

小学校は昼休み、中学校は5限授業中に地震・津波発生を想定した避難訓練を行った。避難道で混雑したため、道の中央を開けるルール作りを確認し合った。

《小中合同出張防災教室》6月14日(土)

○ふれあい参観日

講師：株式会社フタガミ

(防災セミナー・防災ブース)

防災グッズの紹介や飛散防止フィルム
の効果を体感した。



【地域・保護者との連携】

《防災学習・救急法》6月13日(金)

○ふれあい参観日

講師：日本赤十字社



《災害時にも応用
できる身近なもの
を使った救急法を
実施。地域や保護
者も一緒にけがの
手当方法を実践》

《夏休みラジオ体操後の避難場所確認》



各地区でラジオ体操後に避難場所を確認した。お家の方も積極的に参加してくださった。

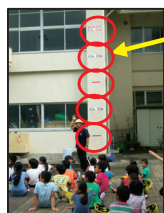
【行政との連携】各表示の設置



《津波避難場所》



《緊急避難所》



《津波予想水位》

飛散防止フィルム

《校舎と体育館
の飛散防止フィ
ルム工事完了》



V 平成26年度高知県実践的防災教育推進事業「防災教育研究発表会」

・東洋町小中学校の悉皆研修

・参観日として、保護者や地域に公開

【期日】平成27年1月29日(木)

【内容】全学級公開授業 13:30~14:15

全体会 14:30~16:30

(児童発表・研究報告・講演等)

【公開授業】

《1年生》学級活動

題材：避難生活ってどんなもの？

指導のねらい：避難

生活の不便さに気付

かせ、周りの人と気

持ちよく過ごすため

に自分で出来ること

を考え、実践するこ

とができるようにする。



《2・3年生》学級活動

題材：揺れがおさまっても…まだ続く危険とは？

指導のねらい：大きな

揺れの後の火災からの

避難方法について考え、

行動することができる

ようにする。



《4・5年生》学級活動

題材：非常持ち出し袋について考える

指導のねらい：家庭

での防災意識を高め、

非常持ち出し袋の重

要性に気づき、準備

する持ち物を考え、

備えることができる

ようにする。



《6年生》学級活動

題材：家族との防災会議をふりかえろう

指導のねらい：家庭

の防災対策を進める

ための方法を考え、

実践することができ

るようにする。



【児童発表】

《1・2・3年生》防災カルタを披露



「読み札」をグループで大きな声で唱え、作者が作った時の気持ちを発表した。

《4・5年生》津波避難三原則の学習から



津波避難三原則を具体的に紹介。防災参観日での「自分の居場所を相手に知らせる方法」を一人ひとりが発表した。

《6年生》クロスロードを活用した発表



「こんな時はどうする?」「わたしだったら・・・」災害時にとる行動とその備えについて、自分の考えを出し合った。

【講演】

○「災害時における子どもの心のケア」

講師：濱川博子 先生

震災直後は生活を安定させるのが第一である。大人が落ち着いていることが子どもの安心に繋がるので、子どもにすぐにアプローチするというよりも、周りの大人達が冷静に動くことが大切。その時々での対応の仕方や、どういった症状が表れるかなどの説明をしてくださった。

VI 成果と今後の取組

【成果】

- 津波予想地図や津波シミュレーション等の資料は、南海トラフ地震の特徴や、津波災害の想定をつかませるために有効であった。
- 日常の挨拶や園児との交流・ふれあいセンターでの交流等を計画的に実施し、地域の方とふれあう時間が持てた。
- 逃げ切るための体力をつけておくことが大切と考え、避難道を体力作りの場を選んだ。毎日避難道を上り下りすることで、より体力がついてきた。「知・徳・体」の「体」と関連付けた取組となった。



- 授業での図上学習をした後、実際に地域をまわり、自分の目で確かめたり、地域の方に聞いたりして、危険箇所や避難場所等を確認することができた。
- 避難訓練や授業中の児童の発言や行動から、地震や津波に関する正しい知識を学び、防災意識が高まってきた。災害時に自分で判断し、行動する力を徐々に身に付けてきている。
- 家庭の防災意識も高まってきている。
- 地域・関係機関の方々との連携が深まり、地域の人材や関係機関との連携の効用を再認識することができた。
- 「防災に対する芽」を育むことができた。

【今後の取組】

- 主体的に行動できる児童の育成をめざし、より系統的な防災教育を推進する。
- 「わがこと防災」として、地域に即した教材の掘り起こしを進める。
- 学習した内容が時間の経過とともに消えないように、学習の成果物を掲示し、常に児童の目に触れさせ、防災に対する意識を継続的に高める手立てを講じる。
- 地域全体の防災意識を高めるため、学校からの情報発信の機会を増やす。